



学校だより

令和5年11月30日

12月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



一人ひとりが「伝える」「認める」学びを創る

校長 加藤 智敏

朝に吐く息が白くなる日が増えてきました。今夏の猛暑の勢いは木々の落葉も遅らせているのか、学校敷地内や周辺の木々の葉もようやく朱色に染まってきています。子どもたちの中にも手袋を着けてくる子が増えてきました。2023年も残すところひと月、12月となりました。

今年一年を振り返るとき、新型コロナウイルス感染症が5月に第五類に移行されたことで、学校の教育活動も大きく変化しました。それまであった制限が縮小され、子どもたちの活動もやりとりや関わり合いが豊かなものになりました。保護者の方や地域の方にも学校に来ていただき、参観していただくことやふれ合うことを増やすことができました。特に、「なかま」の時間（生活科・総合的な学習の時間）では、子どもたちはまちに出ることがとても多くなり、多くの方々と出会って学びを得ることができました。専門家の方々にも多数来ていただき示唆を得ることも多かったです。

11月24日には、「なかま」の時間を公開する「生活・総合フェスタ」を今年度も開催することができました。100名近くの市内外の先生方が集い、子どもたちが真剣に学ぶ様子を見ていただきました。それらの活動は、「野菜を育てて地域の人とつながりたい」「飼育を通してともにふれあいたい」「まちの方々と仲良くなりしたい」「まちを笑顔にしたい」「まちの魅力を伝えたい」というように、活動の先に常に相手を見ることができました。相手のことを想う、特に日枝のまちへの強い愛着を感じる各クラスの授業でした。体験・試行錯誤を繰り返すことを通して持ち得た互いのエピソードを語り合う時間は、参加者からも高い評価をいただくことができました。中でも、横浜市内の元校長先生は、ご自身が校長をされているときに、日枝小から転校してきた子が、「日枝小が、日枝のまちが本当によかったんだ、いつか帰りたいんだ。」と話すのを聞き、どのような学校なのか、どのようなまちなのか、そして、どのような学びを得ているのかと楽しみにしていた。それがよく分かる時間だったとお話してくださいました。子どもたちは、日枝のまちの中で、保護者の皆様や地域の皆様に支えられながらしっかりと育っています。

全国学習状況調査のアンケート調査結果を見ましても、「今住んでいる地域の行事に参加していますか?」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか?」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」という項目で、肯定的な答えが全国の平均を大きく上回っており、特に地域行事に参加しているかという問いについては20%以上上回る結果となっています。この点については、本校の強みとして今後も大切にしていきたいと考えています。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」という問いについては、85%以上の子どもが肯定的な回答をしており、こちらも全国平均を約10%超えています。これまでの授業の中で、互いの意見や考え、価値観や多様性が大切にされてきた本校の取組の成果が出ているとも言えます。

学校のもつ意味や役割、存在意義が大きく問われたコロナ禍でしたが、やはり子どもたちが集ってやりとりすること、また、まちの人々やその他様々な人との関わりを持ち続けることは、子どもたちが問題を解決していく力、そして、他者とのコミュニケーションをとる力に大きな影響を及ぼすことが分かってきました。教育は子どもたちの姿で語るとよく言われますが、まさに今の日枝っ子たちの姿から、体験を通して語り合い、認め合える学びの中でよりよく育っていることが見てとれます。今後も子どもたちは様々な活動の中で日枝のまちに出かけ、皆様と関わるが続くかと思えます。時には支え、時には壁になっていただくことで、子どもたちのよりよい学びと育ちを一緒に見守っていただけたらと思います。私たち教職員も子ども一人ひとりがよりよく育つための教育活動や授業の充実、改善に尽力してまいります。

新しい一年を迎えるにあたり、まずはご自愛いただき、年を越えても変わらぬご支援、そして「子どもたちのために人が集える学校」の創造にお力添えをよろしく願っています。